

令和5年2月16日実施分

令和4年度 家庭教育充実促進事業

「発達がゆっくりの子のための入学準備」

講師：実光 由里子さん

(相愛大学 こども発達学科 教授 臨床心理士・公認心理師)



♪こんなことをお話いただきました♪

- ・発達がゆっくりの子どもにとって、小学校で必要になる力について、家庭でできる子どもの力を引き出す工夫について、具体的にどのようなことができるでしょうか。



【発達の目安】

- ★言語能力や数の理解、運動能力、生活習慣、社会性・人間関係など6歳でできることの目安を知りましょう。ひらがなの読み書きができる。自分の名前が書ける。簡単な足し算、引き算ができる。また、一人で着替えられるなどさまざまな目安がありますが、あくまでも目安であり、発達は個人差が大きく、今できなくても、後からできるようになることも多くあります。

【小学校1年生の1日】

- ★実際の小学校のホームページに掲載されている一日の時間割を参考に、授業は45分で2時間目と3時間目のあいだは15分の休みがあること、給食の時間は配膳と片づけをして含めて40分しかないため、時間内に食べられるのかなども考えておく必要があります。

【小学生に求められる力】

- ★2020年からの学習指導要領では1年生の総授業時間数850コマのうち306コマが国語で、全ての教科の基本となっています。そのうち「書く」「話す」能力が大切です。

【子どもの力を引き出そう】

- ★子どもが質問をしてきたときは、「なんでだと思う？」と考えをひきだすような問いかけをし、考える力につなげていきましょう。子どもの考えを否定せず、一緒に楽しむ、内容よりも自分なりに考えたという経験を積み重ねていきましょう。子どもの感情に共感すると、わかってもらえた体験が、自分も「相手をわかりたい」という願いを作り出します。

【気になる行動への対処例】

- ★「ことばが遅い」子どもにはしりとりやなぞなぞ、クロスワードパズルなどことば遊びで語彙を増やす。保護者が行動や気持ちを実況中継のようにそのまま口にする（セルフトーク）も有効で

す。

★「忘れものが多い」最初のうちは一緒に準備をし、保護者が確認する。それぞれの授業で何が必要かイメージしながら準備し、できたら自分で考えて準備したことをほめましょう。

【気になる？発達障がい】

★「発達障がい」の定義では脳機能の障がいであって、育児の仕方や保護者など周囲の対応や成育環境が原因ではない。発達障害の診断基準が変更されたことで、該当する子どもの割合が増えた、コロナの影響を受けている、発達障がいが多くの人に認識されるようになった。など様々な意見があります。

【子どもの生活で「減少」した時間】

★睡眠 世界の 17 地域で 0～3 歳児までの子どもを持つ保護者への調査では日本が一番睡眠時間が短い結果でした。

★運動 身体感覚への感受性を高める運動を継続して行うことで、計画性や感情のコントロールを司る前頭葉の機能が向上すると言われています。

★会話 同年齢の子どもどうして遊ぶ時間は増加しているが、異年齢の子どもや年代の異なる大人との会話が減っています。

【学校との連携】

★子どもの状況をあらかじめ学校に伝えて、必要な配慮をお願いすることも有効です。給食を時間内に食べられない（残すことが予想される）。大きめの声で、ゆっくり話してほしい、など。

子どもは保護者の焦りや不安を感じ取るので、焦らないで。また、子どもに望む行動を保護者も一緒にやってみましょう。誰にでも得手・不得手な領域があり、発達速度の個人差も大きいものです。不得手をなくすことに力を注ぐよりも、できていること得意なことを見つけて伸ばすことを心がけましょう。

♡アンケートより♡

- ・新しく始まる小学校生活へ焦りがあり、子どもにプレッシャーをかけてしまっていたんだなど反省しました。おおらかに接していけるようにしようと思います。
- ・ゆっくりでも認めてあげる声を子どもにかけてあげたいと思った。「大丈夫？」とよく聞いているので、不安を引き出さないように気を付けたいと思います。
- ・子どもが自分の感情を吐き出しやすい家庭環境づくりが大切だと思った。
- ・具体的な言葉かけや親子のやりとりなど、想定しやすいシチュエーションが多くとてもわかりやすかった。
- ・不安が多かったが、お話を聞いて心配ばかりせずおおらかに子どもと向き合おうと思った。
- ・子どもへの声掛けなど実際にやってみようと思います。大丈夫!とおおらかな気持ちでできていることを認めてあげるようにしていきたい。
- ・子どもへのかかわり方を見直してみようと思いました。